

鹿兒島鹽務局所屬

指宿出張所 鹿兒島縣指宿郡指宿村大字十二町字濱畑千五百八十一番地
 知覽出張所 同縣川邊郡知覽村知覽稅務署內
 西市來出張所 同縣日置郡西市來村湊町字祇園町三千二百七十八番地
 隈之城出張所 同縣薩摩郡隈之城村隈之城稅務署內
 出水出張所 同縣出水郡上出水村出水稅務署內
 加治木出張所 同縣始良郡加治木村反土字下濱町二百二十四番外三十三番地
 垂水出張所 同縣肝屬郡垂水村田神字本町二千三百八十六番外一番地
 鹿屋出張所 同縣同郡鹿屋村鹿屋稅務署內
 種子島出張所 同縣熊毛郡北種子村種子島稅務署內

第三章 專賣法ノ改正

第一節 專賣法ノ改正

鹽專賣法ハ明治三十八年一月一日法律第十一號ヲ以テ公布セラレ同年六月一日ヨリ之ヲ施行シ
 タリ

法律第十一號 (明治三十八年一月一日)

鹽專賣法(省略(第二章第
 二節參看))

當時干戈尙戢マラスシテ諸般ノ事業未タ平時ノ狀ニ復スルニ至ラス此ノ際ニ於ケル新制ノ施行
 ハ種々ナル方面ニ於ケル諸多ノ關係ノ紛糾纏綿セルアリテ容易ニ圓熟ヲ見ルニ至ラサルモノア
 リ就中鹽價ノ如キ動モスレハ格外ニ奔騰セルアリテ啻ニ專賣施行ノ影響ノミナラス戰時諸物價
 ノ高値ヲ來セル關係アリ加フルニ鹽作ハ稀有ノ凶歉ニ際會シタリシヲ以テ鹽價ノ調整ニハ頗ル

大島出張所 同縣大島郡金久村大島稅務署內
 宮崎出張所 宮崎縣宮崎郡宮崎町宮崎稅務署內
 福島出張所 同縣南那珂郡福島村大字西方字下郡本五千四百三十六番地
 飫肥出張所 同縣同郡飫肥町飫肥稅務署內
 高鍋出張所 同縣兒湯郡高鍋町高鍋稅務署內
 延岡出張所 同縣東臼杵郡岡富村延岡稅務署內
 那覇出張所 沖繩縣那覇區那覇稅務署內
 國頭出張所 同縣國頭郡名護間切國頭稅務署內
 宮古出張所 同縣宮古郡砂川間切宮古稅務署內
 八重山出張所 同縣八重山郡大濱間切八重山稅務署內

困難ヲ感シタリ既ニシテ平和克復ニ至リシト雖經濟界ハ仍ホ陵夷ノ勢遽ニ平調ヲ見ルニ至ラス
 鹽價ノ如キ適度ニ之ヲ抑制スルノ方法ヲ講スルニ非サレハ之ヲ矯正スルコト難キヲ認ムルニ至
 リタルヲ以テ鹽專賣法中改正ヲ加ヘ必要ノ場合ニハ政府ニ於テ價格ノ制限ヲ爲シ得ヘキ規定ヲ
 加フルコトヲ必要トシ改正法律案ヲ明治三十九年第二十二帝國議會ニ提出シタリ尙之ヲ機會ト
 シ鹹水ノミヲ製造スル者アリテ鹽ノ代用ニ供スルノ虞アリシヲ以テ鹹水ノ製造ハ鹽ノ製造ト同
 シク製造許可ヲ要スルコトトシ其ノ製造シタル鹹水ハ必ス鹽ノ製造ニ供用セシムヘキコトニ法
 律中ニ追加シ智利硝石又ハ「カイニツト」等ノ如キ含鹽礦物ノ輸入品ニ在リテモ亦鹽ノ代用ヲ爲シ
 得ヘキヲ以テ之ヲ輸入又ハ移入スルトキハ相當ノ變性ヲ施シテ鹽ノ代用ニ供シ得サル物質ト爲
 シ專賣侵害ノ危險ナカラシムルノ必要ヲ認メ之亦改正法案中ニ追加スルコトト爲シタリ同法案
 ニ對シ衆議院ニテハ其ノ特別委員會ニ於テ鹽價ノ制限ハ其ノ暴騰ヲ矯ムル方法トシテ之ヲ可ト
 スルモ專賣法ノ施行上ニ付テハ弊害アリトシ(一)政府ハ特定販賣人ノ外一般希望者ニ對シ隨時賣
 下ヲ實行スルコトヲ得ルコト但シ賣下ノ手續ハ迅速ニスヘシ(二)政府ハ收納セサル鹽ニ對シ豫約
 賣渡方法ヲ改良スルコト(三)施行細則第二十七條中一回五千斤以下トアルヲ低減シテ一般需用者
 ノ便宜ヲ圖ルコト(四)製鹽改良ヲ圖ル目的ニ於テ賠償價格等級ノ差金ヲ擴クルコト(五)外國鹽輸入
 ノ時期ハ內國鹽業上ニ大關係アルヲ以テ十分ノ注意ヲ爲スコト(六)政府ハ臺灣鹽一手販賣ヲ命令
 スルニ付テハ「アルカリ」工業用需要者ニ對シテハ政府賣下ノ原價ヲ以テ遲滯ナク賣渡ヲ爲サシム
 ルコト、一般需要者ニ對シテハ政府賣下原價ニ對シ一割五歩以上ヲ増加セサル代價ヲ以テ賣渡ヲ
 爲サシムルコト等六箇條ヲ舉ケテ政府ノ注意ヲ求メタリシヲ以テ政府委員ハ其ノ要求中ニハ直
 ニ同意シ難キモノナキニ非サルモ講究問題トシテ留保シ十分ニ考慮ヲ加ヘ成ルヘク希望ヲ副フ
 コトニ力ムヘキ旨ヲ説明シ尋テ本會議ニ入り何等異議ナク滿場一致ニテ可決シ同案ノ貴族院ニ

送付セラルルルヤ同院ニ於テモ之ヲ可決シ裁可奏請ヲ爲シ明治三十九年三月之ヲ公布シタリ

法律第十五號 (明治三十九年三月二十九日)

鹽專賣法中左ノ通改正ス

第三條及第四條中「鹽」ノ下ニ「及鹹水」ヲ加フ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

智利硝石「カイニット」「シルヴイニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザ

ルツ其ノ他ノ礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノハ命令ノ定ムル處

ニ依リ變性ヲ施スニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコ

トヲ得ス

第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

鹹水ハ之ヲ讓渡シ質入シ又ハ鹽製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ鹽製造者ニ讓渡

スルハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 第一項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スルモノ

第二十條ノ二 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣買業者ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコト

ヲ得

第三十條ノ二 鹽賣買業者第二十條ノ二ノ制限ヲ超ヘテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百

圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條ノ二 鹹水ニ關シテハ第六條、第九條乃至第十三條、第二十二條、第二十四條、第二十五條、

第二十七條乃至第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス本法施行ノ際鹹水ノミヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ鹹水ノ製造ヲ爲スコトヲ得

尋テ第二十三帝國議會ノ開カルルヤ明治四十年二月衆議院ニ於テハ鹽專賣法廢止法律案ノ提出アリ

鹽專賣法廢止法律案

鹽專賣法ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右法案提出議員ハ其ノ理由ヲ説明シテ曰鹽專賣法ハ戰時匆卒ノ間ニ制定セラレタル惡稅中ノ最ナルモノニシテ政府自ラ賤買貴賣鎔銖相爭フカ如キハ實ニ國家ノ本能ヲ賊フモノナリ今日ニ於テ此ノ如キ蠻法ヲ存續スルハ實ニ國家ノ恥辱ナリ抑鹽專賣ハ人生ノ必需品ニ對シ重キ負擔ヲ爲サシムル一種ノ生活稅ニシテ國民ノ生産力ヲ萎縮セシメ國民ノ健全ナル發達ヲ害スルモノナリ殊ニ價格ノ三倍ニモ相當スヘキ從價ノ負擔ヲ負ハシムルハ過重ノ課稅ニシテ然カモ帝國人口ノ最大部分ヲ占ムル下級細民ノ負擔ニ歸スル所最多ク或ル意味ニ於テハ細民稅トモ謂フヘキ劣惡ナル人頭稅ナリ斯ク人道ニ反スル惡稅ナルニ拘ラス之ヲ維持セムカ國民ノ健全ナル發達ハ到底期シ得ヘカラスシテ殖産工業上ニ被ムル損失甚タ多ク現ニ水産製造業者ノ如キハ其ノ打擊最著シクシテ國家自ラ多大ノ損害ヲ招キツツアリ政府ハ又專賣ニ依リ鹽業ヲ保護スト稱スルモ五千萬國民ヲ苦シメテ一部少數ノ鹽業者ヲ保護スルカ如キハ本末輕重ヲ轉倒スルモノナリ況ヤ鹽業

者ニ在リテモ同様ニ苦痛ヲ訴ヘツツアリ又品質改良ヲ以テ專賣ノ一ノ目的ニ數フルモ之亦鹽價騰貴ノ爲一般ノ需要ハ劣等品ニ移リ品質改良ハ望無キニ至レリ斯ノ如キ愚ナル制度ニ依リ國庫ノ得ル處果シテ如何ヲ見ルニ明治四十年ノ豫算ニ於テ收入二千七百六十一萬圓ニ對シ僅ニ一千二三百萬圓ノ純益ヲ得ルニ止マレリ斯ノ如キ制度ハ一日モ速ニ之カ廢止ヲ斷行セサルヘカラスト之ニ對シ大藏大臣ハ鹽ノ專賣制度ヲ廢止スルトセムカ内地ノ鹽田ハ終ニ維持ヲ見ル能ハスシテ荒廢ニ歸スルニ至ルヘキ虞アルノミナラス之ヲ國家ノ生存上ニ考フルモ全部ノ供給ヲ海外ニ待ツハ危險ニシテ内地ニ於テ供給ノ餘地ヲ存スルノ必要アリ況ヤ鹽專賣ニ依ル收入千二三百萬圓ヲ他ニ求メサルヘカラスシテ歲計上至難ノ事ニ屬ス今ヤ稅制整理ニ關シ調査會ヲ設ケ審議中ニ在ルヲ以テ本案ハ之ヲ否決セラレムコトヲ望ム旨ヲ辯シ其ノ討議ニ入ルヤ廢止ヲ否トスル論者ハ必要品ニ課稅スル必スシモ惡稅ト爲スヘカラサルコト、鹽專賣ノ負擔ハ敢テ過重ナリト云フヲ得サルコト、農工業用ノ鹽ハ低價賣渡ヲ爲セルヲ以テ事業ノ振興ニ害アラサルコト、内地ノ鹽業ヲ全滅セシムルハ國ノ獨立ヲ危險ナラシムルコト、鹽質ハ專賣施行後大ニ上進シ施行前ノ如ク劣惡ナラサルコト、專賣ニ要スル經費ハ僅ニ九十萬圓ニ過キスシテ純益ニ對シ寡少ナルコト等ヲ說キ論議ノ末終ニ之ヲ否決シタリ

然レトモ又一方ニハ鹽專賣法ノ如キ兵馬倥傯ノ中ニ制定シタル法制ニ在リテハ往々ニシテ粗漫ノ缺點ヲ免カレス殊ニ同法ノ如キ繁苛ナル稅法ハ平和克復ノ今日永ク存續スヘキモノニ非スシテ適當ナル財源ヲ他ニ求メテ之ニ代ハラシムヘキナリ恰モ好シ政府ハ稅法調査會ヲ設ケ稅制ノ整理ヲ圖リツツアルヲ以テ其ノ趣旨ニ從ヒ稅法ヲ革新シテ負擔ノ均衡ヲ期スルト同時ニ其ノ不頁ナルモノヲ改廢シ以テ細民ノ疾苦ヲ救濟スヘシトシ鹽專賣法廢止建議ヲ提議シ前記廢止法律案ト共ニ同一委員ニ付託シ審議シタルニ廢止法律案ハ否決シタルモ政府ヲシテ之カ廢止ヲ圖ラ

シムルヲ可トシ廢止建議案ヲ可決シ政府ニ送付シタリ

鹽專賣法廢止ニ關スル建議案

現行ノ鹽專賣法ハ分頭稅ノ性質ヲ帶ヒ加フルニ鹽價激増シ多數細民ハ痛苦ニ堪ヘス政府ハ今ヤ幸ニ稅法調査會ヲ設ク速ニ斷然之ヲ廢止シ代フルニ適當ノ財源ヲ調査シ以テ其ノ法案ヲ議會ニ提出スヘシ茲ニ之ヲ建議ス

明治四十年三月二十日

內閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

衆議院議長 杉田定一

軍費ノ財源トシテ制定セラレタル非常特別稅法ハ平和克復ニ至リタル翌年ノ末日限り廢止スルコトノ規定ナリシモ戰役ノ終局ト共ニ國費ハ膨脹シ仍ホ巨額ノ財源ヲ要シ政府ノ財政ハ依然トシテ同法ノ存續ヲ必要トシタリシヲ以テ往年第二十二帝國議會ノ開カルルヤ其ノ繼續法案ヲ議會ニ提出シ其ノ協贊ヲ求メタルニ當リ大藏大臣ハ議會ニ於テ戰時ノ稅法ハ急遽ノ制定ニ係リ必スシモ國民經濟ノ狀態ニ適應シテ公平均衡ヲ得タリト云フヘカラサルモノアルヲ以テ二箇年ヲ期シテ一般ノ稅法ヲ調査シ整理ヲ遂ケ財政ノ基礎ヲ確實ニセムコトヲ期スル旨ヲ宣明シ明治三十九年四月閣議ヲ經テ大藏省內ニ稅法審查委員會ヲ設置シ稅法整理ノ準備調査ニ著手シタリ同會ニ於テハ廣ク各種ノ課稅及專賣ニ付一方ニハ外國ノ法制ニ稽ヘ且ハ國情ニ鑑ミ經濟財政ノ兩面ヨリ慎重ニ利害得失ヲ研究シ建議進言ノ如キ苟モ世論ノ存スルモノハ悉ク舉ケテ之ヲ審查シ取捨必ス其ノ理由ヲ明ニシ稅源ノ選擇及之カ改善ニ付各當局ノ意見ヲ徵シ稅法ノ影響及戰前戰後ニ於ケル一般產業ノ盛衰國民生計ノ變遷、納稅能力ノ強弱等ニ關シテハ當該官廳及當該關係者等ニ諮問シ廣ク智識ヲ求メ以テ審議討論ヲ盡シタリ而シテ同會ニテハ調査ノ結果三箇ノ租稅整

理案ヲ得タリ

第一案 現行税法中負擔ノ權衡ヲ失スルモノ又ハ徵稅ノ簡便ヲ缺クモノ其ノ他改善ヲ要スヘキモノニ對シ整理ヲ爲サムトス

第二案 比較的善良ナリト認メタル新稅ノ創設ニ依リ補填シ得ヘキ限度ニ於テ世間ニ議論多キ租稅ヲ廢止セムトスルモノニシテ鹽專賣及通行稅ヲ廢止シ代フルニ家屋稅壯丁稅酢稅及石油消費稅ヲ以テセムトス

第三案 世間ニ議論多キ租稅ハ全部之ヲ廢止スルト同時ニ租稅組織ノ現制ヲ根本ヨリ改案セムトスルモノ即チ地租所得稅營業稅織物消費稅通行稅及鹽專賣ヲ廢止シ代フルニ不動産稅ヲ以テセムトス

委員會ハ其ノ第一案ヲ以テ現下ニ行フヘキ整理トシテ最適當ナルモノト認メ其ノ決議ノ趣旨ニ依リ成案ヲ作成シタリ然レトモ稅法整理ノ事タル頗ル重大ニシテ關係スル所甚廣汎ナルカ故ニ其ノ調査ノ慎重ヲ期シ明治四十年三月大藏大臣ハ更ニ稅法整理案審査會規則ヲ定メ關係官省ノ官吏及貴族院並衆議院議員其ノ他學識經驗アル者ニ囑託シ前記稅法審査委員會ノ成案ヲ審査セシムルコトトシタリ同會ハ先以テ稅法審査委員會ノ調査ニ係ル三案中其ノ何レヲ採用スヘキカニ關シ審議シ其ノ第三案ニ在リテハ内容ニ於テ諸多ノ批難アルノミナラス現行制度ハ特別ノ歴史アリ沿革アリ且既ニ幾多ノ年處ヲ經テ國民其ノ施行ニ慣レタルモノナルヲ以テ今日之ヲ根本ヨリ變革スルハ經濟上財政上共ニ危險ナルモノナリトシ其ノ第二案ニ在リテハ其ノ創設セムトスル新稅ノ可否ハ姑ク之ヲ措キ現行ノ租稅ヲ廢シ新ニ之ニ更ハラシムル必要ハ之ヲ認ムル能ハサルノミナラス國家財政ノ前途ハ財源ノ涵養及留保ヲ必要トスルヲ以テ此ノ際新稅ヲ創設スルハ策ノ得タルモノニ非ストシ二者共ニ之ヲ採ラス而シテ其ノ第一案タル現行税法中負擔ノ權衡

ヲ生スルモノ又ハ徵稅ノ簡便ヲ缺クモノ其ノ他改善ヲ要スヘキモノニ對シテ整理ヲ爲サムトスルモノヲ以テ現下ニ行フヘキ最穩當ナル整理方案ナリト認メ之ヲ原案トシテ審査スルコトニ決シタリ然レトモ審議ノ範圍ハ原案ノ論議ニ止マラス稅法審査委員會ノ審議ニ上リタル各種ノ問題ハ勿論其ノ審議ニ上ラサリシモノト雖苟モ財政上又ハ經濟上研究ヲ要スヘキ問題ニ付テハ之カ利害得失ヲ討究シ特ニ世論ノ存スル問題ニ付テハ一層慎重ニ審議シ之カ決定ヲ爲シ鹽專賣ニ在リテハ之カ存續ヲ可決シ將來鹽價低減ニ付適當ノ施設ヲ要スルモノト爲レタリ爰ニ鹽專賣ニ關スル審査ノ梗概ヲ掲クレハ左ノ如シ

鹽專賣法ニ關シテハ審査會ハ會ヲ重ヌルコト三回其ノ間特別委員會ヲ開クコト二回ニ及ヒ最モ慎重且詳密ニ審議ヲ盡シタリ

審議ニ先キ委員ノ一人ハ原案ニ於テ鹽專賣法ヲ存續スルコトニ決シタル理由ヲ説明シタリ其ノ大要左ノ如シ

一 鹽專賣ハ生活必需品ニ課稅スルモノナルヲ以テ性質上不可ナリトノ說アリト雖財政上必要ノ場合ニ於テ之ニ財源ヲ求ムルモ強チ不可ナリト謂フヘカラス彼ノ泰西諸國ニ於テ或ハ課稅ニ依リ或ハ專賣ニ依リ鹽ニ財源ヲ求ムルモノ多キヲ見テモ此ノ理ヲ知ルニ足ルヘシ鹽ノ如ク收入ノ確實ナル好箇ノ財源ハ他ニ多ク之ヲ發見スルヲ得ス

二 鹽專賣ハ其ノ負擔比較的下級ニ重キヲ以テ不可ナリトノ說アリト雖其ノ負擔ハ過大ナリト認ムル能ハス

三 鹽專賣ハ産業ヲ阻害スルノ說アリト雖主要産業ニ使用スルモノニ對シテハ特別低價拂下ノ特典ヲ與フルヲ以テ強チ其ノ事實ヲ認メ難シ

四 收入ノ目的ヲ達セムトセハ專賣ニ依ルヲ要セス消費稅ニ依ルモ可ナリトノ說アリト雖

消費稅ヲ課スルトキハ脫稅多クシテ豫期ノ收入ヲ得難キノミナラス多額ノ生産費ヲ要スル内地鹽ハ生産費ノ少キ外國鹽ノ輸入ニ對抗スルヲ得スシテ内地鹽業ハ衰頽シテ復タ起ツ能ハサルニ至ルヘシ曩日議論喧シカリシ十州鹽田其ノ他ノ鹽田カ今日漸ク復活ノ勢ヲ得タルハ全ク鹽專賣ノ效果ナリ

- 五 鹽專賣ハ其ノ所要經費過多ナルヲ以テ不可ナリトノ說アリト雖豫定純收入千三百餘萬圓ニ對シ九十餘萬圓ノ經費ハ決シテ過當ト謂フヘカラス
- 六 若シ假ニ鹽專賣ヲ廢止スルモノトセハ千三百萬圓ノ歲入不足ヲ生スヘシ而シテ之ヲ補填スヘキ適當ノ好財源ヲ他ニ發見スルコト頗ル困難ナリ
- 七 要スルニ鹽專賣ハ財政上之ヲ廢止スルコト能ハサルノミナラス産業上之ヲ存續スルノ必要アリ然レトモ專賣ノ制度殊ニ販賣ノ方法ニ關シテハ前途尙改善ヲ要スヘキ點アルヲ認ムルヲ以テ政府ハ漸ヲ追フテ之カ改善ヲ勉ムルヲ要ス

又他ノ委員ハ專賣制度改善ニ關スル方針及計畫ニ關シ詳細説明スル所アリ其ノ大要左ノ如シ

- 一 鹽專賣ニ對スル將來ノ計畫ハ之ヲ大別スレハ生産ニ關スルモノト販賣ニ關スルモノトノ二ツニ分ツヘシ

第一生産ニ關シテハ

- イ 内地鹽田中比較的多額ノ生産費ヲ要スル地方ノ鹽田ハ漸次之ヲ整理スルコト
- ロ 鹽田ノ整理ノ爲生スル鹽ノ不足ハ價格低廉ナル臺灣鹽又ハ關東州鹽ヲ輸入シテ之ヲ補足スルコト
- ハ 器械製鹽其ノ他製鹽方法ノ改良ヲ獎勵シ鹽ノ品質ヲ改善スルト同時ニ生産費ノ減

少ヲ圖ルコト

第二販賣ニ關シテハ

イ 鹽ノ供給ヲ潤澤ニシ且之ヲ低廉ニ供給スル目的ヲ以テ鹽ヲ回送販賣スルコト竝之

ニ依リ全國ノ販賣價格ヲ均一ナラシムルヲ期スルコト

ロ 全國主要ノ消費地ニハ官設販賣所ヲ設クルコト

ハ 右ノ外政府ノ指定スル元賣捌人及小賣人ヲ設ケ其ノ小賣價格ヲ制限シ又ハ一定ス

ルコト

等ヲ以テ其ノ重ナルモノトス而シテ此等ノ計畫ヲ遂行スルニハ相當經費ト準備期間トヲ要スルヲ以テ其ノ全部ノ遂行ヲ期スルニ多少ノ歲月ヲ要スルハ勿論ナリトス

二 以上ハ專賣制度ヲ改善シテ其ノ執行ノ圓滿ヲ期スルト同時ニ成ルヘク低廉ナル價格ヲ

以テ鹽ヲ供給セントスルノ目的ニ出ルモノトス而シテ將來ノ方針トシテハ更ニ進テ内

地、臺灣、關東州、並韓國ノ間ニ鹽政ニ關シテハ相互ノ關係ヲ確立シ以テ鹽務行政ノ整理統

一ヲ圖ラムコトヲ期ス

以上ノ説明ニ次テ委員ヨリ各種ノ質問續出シタリシカ多數委員ノ疑ヲ懷ケル主ナル點ハ

專賣法施行前ニ於ケル鹽一升ノ平均小賣ノ價格三錢三厘内外ナルヲ以テ之ニ專賣率二錢五

厘ヲ加フルトキハ專賣法施行後ニ於ケル小賣價格ハ五錢八厘乃至六錢ナラサルヘカラサル

ニ實際市場ノ小賣價格ハ非常ニ昂騰シテ一時一升十四錢ノ高價ヲ示スニ至リタル理由如何

ト云フニ在リ之ニ對スル當局ノ答辯左ノ如シ

鹽價ノ騰貴ハ專賣法施行ノ初年タル明治三十八年ニ於ケル顯著ナル事實ナリト雖之ヲ以テ

總テ專賣施行ノ結果ナリト速斷スルハ不可ナリ今其ノ原因ヲ探究スルニ(一)明治三十八年ニ

於ケル製鹽ノ生産ハ近年無比ノ凶作ニテ平年ノ六割五分作ニ過キサリシコト(二)鹽商ハ專賣

法ノ施行ニ乘シテ專賣法以上ニ鹽價ヲ騰貴セシメ更ニ製鹽凶作ノ聲ニ乘シテ生産不足ノ割合以上ニ鹽價ヲ騰貴セシメタルコト(三)專賣事業創草ノ際ニ屬シ販賣ノ方法未タ整備セサリシヲ以テ需要供給ノ權衡ヲ保持シ得サリシコト等ニシテ其ノ重モナル原因ハ明治三十八年ニ於ケル製鹽ノ凶作ニ在リ而シテ明治三十九年ノ製鹽ハ豐作ト稱スヘカラスト雖平年作ニ近ク前年ニ比シテ産額多カリシノミナラス官民專賣ニ慣レタルヲ以テ三十九年夏期以後ハ鹽價下落シ同年十一月後四十年二月マテニ於ケル毎月ノ全國小賣平均相場ハ一升七錢三厘ニシテ四十年三月ニハ七錢二厘トナルニ至レリ而シテ專賣法施行後ニ於ケル鹽價ヲ論スルニ當リ看過スヘカラサルハ一般物價ノ騰貴ト鹽質改良ノ二點ナリトス一般物價ノ騰貴ニ從ヒ勞銀燃料ノ鹽價ニ及ホシタル影響ハ細說ヲ要セスト雖鹽質ノ改良ニ付テハ茲ニ一言ヲ附加スルノ要アリ即チ專賣法施行後ハ百分中七十未滿ノ鹽化曹達ヲ含有スル鹽ハ之ヲ收納セズ再製ヲ命スルヲ以テ專賣法施行前百分中六十前後ノ鹽化曹達ヲ含有スル鹽多量ナリシニ比シ專賣法施行後ノ今日ニ於テハ鹽質大ニ改良セラレ從テ專賣法施行後ノ鹽八合九勺二才ヲ以テ專賣法施行前ノ一升ニ匹敵スルニ至レリ故ニ鹽價ヲ比較スルニハ此ノ點ヲモ考察セサルヘカラス

其ノ他各種ノ質問、應答アリシカ討論ニ移ルニ及テ委員ノ一人ハ鹽專賣法廢止論ヲ提出シタリ其ノ所說ノ大要左ノ如シ

鹽專賣ノ惡制度タルヤ今茲ニ喋々スルヲ要セス國民舉テ之ヲ認ムル所ニシテ既ニ衆議院ニ於テ其ノ廢止建議案ヲ議決シタルニ徴スルモ明ナリ而シテ其ノ廢止ニ因リテ生スヘキ歲入不足ニ對スル補填方法ノ如キハ鹽專賣法廢止ヲ決議シタル後ニ於テ之ヲ研究スヘク先ツ歲入補填方法ヲ研究シテ後鹽專賣法ヲ論議スルハ前後ヲ顛倒セルモノナリ速ニ鹽專賣ノ廢止

ヲ決スヘシ

次ニ他ノ委員ハ鹽專賣ノ弊害ヲ列舉シ之カ廢止ヲ主張シテ曰ク

一 一般漁業者ハ漁獲物ヲ十分ニ鹽藏スルコト能ハス鹽專賣ハ産業ヲ阻害スル弊アリ

二 細民殊ニ農家ニシテ野菜ト鹽トヲ交換シ生活ニ資シタル者ノ如キ從來ノ慣行ニ依ル能ハス生活ニ困難スルニ至レリ

三 一人一箇月三錢四厘ノ負擔ハ輕微ナリト云フモ一家五人トシテ年額二圓ヲ負擔スルハ決シテ少額ナリト云フヘカラス貨幣制度ノ改革又ハ米價ノ騰貴ニ依リ一般國民カ生活ニ困難ヲ感スル折柄生活ノ必需品ニ對シ貧富ヲ論セス平均年額二圓ヲ負擔セシムルハ苛酷ナリ

四 專賣ノ結果鹽價騰貴シ苦痛ヲ感セシムルノミナラス鹽ノ分配供給不完全ニシテ一層困難ヲ感セシム

五 政府カ小賣價格ヲ制限シテ小賣業者ノ益金ヲ削除スルトキハ小賣業者中廢業スル者續出スヘシ若シ政府カ進テ小賣マテモ爲シ分配供給ヲ完全ニスルト共ニ價格維持ニ努力ムカ多大ノ費用ヲ要スヘキノミナラス殆ト實行不能ナルヘシ

六 元來鹽ハ煙草ト異リ其ノ物件ノ性質上專賣品トシテ不適當ナリ即チ之ヲ保存スルニモ封緘スルニモ不便大ナリ

七 專賣ニ依リテ鹽業ヲ保護ストノ說アルモ右ノ如キハ他ノ手段ニ依リテ之ヲ行フハ免モ角專賣ニ依リテ之ヲ爲サムトスルハ大ニ誤レリ況ヤ内地産ノ如キ生産費高キ不經濟ノモノヲ保護セムトスルハ不可ナリ宜シク臺灣鹽又ハ關東州鹽ヲ輸入シ其ノ自然ノ競争ニ任シテ可ナリ

八 要スルニ鹽專賣ハ何レノ點ヨリ見ルモ不可ナルヲ以テ斷然之ヲ廢止シ其ノ歲入補填ト

シテハ山林稅ヲ起スヘシ元來山林ノ實測段別ハ公簿登錄ノ段別ヨリ遙カニ大ナルニ拘ラス其ノ地價頗ル低ク從テ公費ノ負擔極メテ少シ特ニ材木價格ノ騰貴ハ山林收入ヲシテ非常ニ豐富ナラシムルニ至リタルヲ以テ山林稅率ヲ現行ノ十倍ニ増加スルモ差支ナシ之ヲ十倍ニ増加スルトキハ鹽專賣ノ純收入タル千三百萬圓ヲ得ルニ難カラス況ヤ山林ヲ所有スル者ハ概シテ富者ナルヲ以テ山林稅率ヲ増加スルモ敢テ過重ノ負擔ト謂フヘカラサルニ於テヲヤ

委員中ニハ又近時各所ニ頻發スル鑛山暴動ノ遠因ハ鹽專賣ノ爲生活費増加シタルニ因ルモノナリト極論シ鹽專賣廢止論ニ左袒スル者アリシカ委員中又左ノ如キ說ヲ爲ス者アリ曰ク

一 鹽專賣ノ性質上惡制度タルヤ多ク論議ヲ要セス唯之ヲ辯護スルハ財政上ノ目的及鹽業保護ノ目的ノ二點ニ外ナラス而シテ財政上ノ目的ニ對シテハ必スシモ鹽專賣制度ニ依ルヲ要セス砂糖專賣其ノ他新稅ヲ創設スル可ナリ關稅及消費稅ヲ増加スル亦不可ナラス故ニ財政上ノ目的ノミニ依リ專賣鹽ノ可否ヲ論スルハ物ノ本末ヲ誤ルモノナリ而シテ鹽業保護ノ目的ノ爲ニ鹽專賣ヲ維持スルハ世界例ナキコトニシテ保護ノ極端ニ走ルモノナリ鹽業ヲ保護スルニハ關稅政策又ハ産業獎勵ノ方法ニ依ルヲ可トス

二 敘上ノ如ク鹽專賣法ハ財政ノ目的及鹽業保護ノ目的上適切ナル方法ニ非ス早晚之カ廢止ヲ豫期セサルヘカラスト雖今ニシテ俄然之ヲ廢止スルハ穩當ナラサルヲ以テ一般財政ノ計畫確立スルニ至ルマテ又ハ鹽業保護ノ方法決定スルニ至ルマテ暫ク專賣法ヲ維持スルハ已ムヲ得サル所トス然レトモ現行法ヲ其ノ儘維持スルハ固ヨリ不可ナルヲ以テ一方賠償價格ヲ低減シテ鹽業者ヲシテ保護ニ慣レシメス他日專賣制度撤廢ノ時ニ際

スル警戒ヲ與フルト同時ニ他方專賣率ヲ低減シテ鹽價ヲ低落セシメ一般消費者ノ負擔ヲ輕減スルヲ可トス蓋シ鹽專賣ニ依ル負擔ヲ幾分輕減スルハ彼ノ相續稅ノ輕減ト相並テ適當ナル措置ナリトス

鹽專賣廢止論ニ對シテ之カ存續維持ヲ主張スル委員少カラス其ノ所說ノ要點ヲ綜合スレハ次ノ如シ

- 一 鹽專賣カ性質上惡制度ナリト論スルハ徒ニ理論ニ偏スルモノニシテ實際ノ事實ニ遠サカルモノナリ一箇月一人三錢四厘ノ負擔ハ決シテ過重ナルニ非ス勿論實際ニ於テハ政府ノ收入スル專賣率以上ノ市價ヲ呈スルコトナキニ非スト雖之カ改善ノ方法ナキニ非サルヲ以テ此ノ事實ヲ以テ直ニ制度ノ根本ヲ批難スルハ當ラス
- 二 鹽專賣ハ富者ニ輕ク貧者ニ重キ負擔ヲ命スルモノナリト云フト雖戰役ノ財政ニ於テハ富者ハ所得稅、相續稅等ニ於テ累進的負擔ヲ爲セルヲ以テ必スシモ負擔ノ公平ヲ缺ケルモノト云フヘカラス貧者亦相當負擔ヲ爲スハ固ヨリ已ムヲ得サル所ナリ況ヤ鹽專賣必委員中スシモ貧者ニ重ク富者ニ輕キ負擔ヲ與フルモノト斷言シ得サルニ於テヲヤ
- 三 山間僻陬等ニ在リテハ鹽ノ供給不充分ニ且鹽價高シト云フト雖元來物價ハ其ノ產地ヲ距ルコト遠キニ從ヒ高直ヲ示スハ經濟自然ノ理法ニシテ怪シムニ足ラス是レ專賣ノ影響ニ非スシテ專賣施行前ニ於テモ亦然リ況ヤ政府ハ將來此等ノ地方ニ向テ供給ヲ潤澤ニシ價格ノ低廉ヲ圖リ且漸次鹽價ヲ均一スヘントノ計畫ナルヲ以テ之ヲ認メテ可ナリ
- 四 明治三十八年專賣創始ノ際ニ於ケル變例ノミヲ以テ之ヲ批難スルハ當ヲ得ス
- 五 官費ヲ以テ鹽ヲ回送シ其ノ供給ヲ潤澤ニスルハ既ニ本年度ヨリ實行スル所ナルヲ以テ之ヲ以テ實行不能ノ空想ナリトシテ排斥スヘカラス

- 五 鑛山ノ暴動ヲ以テ鹽專賣ノ罪ニ歸セムトスルハ鹽專賣ヲ誣フルモノナリ
- 六 專賣ヲ以テ鹽業ヲ保護スルハ不可ナリトノ說アルモ元來專賣ハ鹽業保護ノミヲ以テ主タル目的トスルモノニ非ス收入ヲ期スルニ伴フ副タル目的トシテ所謂一舉兩得ナリ
- 七 内地鹽業ニ對シテハ關稅政策又ハ其ノ他産業獎勵ノ方法ニ依リテ保護スレハ足レリト論スト雖此ノ事タルヤ言フヘクシテ容易ニ行ハレ難キハ彼ノ專賣法施行前長ク十州鹽田ノ問題喧シカリシニ徴シテ明ナリ
- 八 又内地鹽業ノ如キハ自然ノ競争ニ任シ臺灣鹽關東州鹽ノ如キ廉價ナル鹽ヲ輸入スレハ足レリ必スシモ多額ノ生産費ヲ要スル内地鹽業ヲ保護スルヲ要セスト云フト雖食物ノ獨立ハ或程度マテ之ヲ維持スルノ必要アリ從テ内地ニモ相當鹽業ノ存在スルヲ必要トスルヲ以テ經濟自然ノ成行ニ放任スルハ危險ナリ
- 九 千三百萬圓ノ收入ハ巨額ノ財源ナリ今之ニ代ルヘキ他ノ良財源ヲ發見スルコト頗ル困難ナリ或ハ山林ニ對シテ十倍ノ増稅ヲ爲シ鹽專賣ノ財源ニ代フヘシト云フト雖山林ノ收入ハ爾ク大ナルモノニ非ス何トナレハ(一)現今山林所有者ハ規則正シキ輪伐法ヲ採ラスシテ材木ノ價高キニ委セ濫伐スルノ弊アルヲ以テ今年收益大ナルモ明年以後幾十年間ハ收穫皆無ナルコト多キコトト(二)現在ノ山林繁茂シテ鬱然タルモノアルモ是レ幾十年間ノ結果ニシテ多年投入シタル經費及利子ヲ積算スルトキハ決シテ利益過大ナルモノニ非サルコト(三)深山幽谷ノ山林ハ外觀壯大ナルモ伐採運搬ノ便ナキ爲開闢以來殆ト斧鉞ヲ入レス唯地租ヲ負擔スルニ過キサレモノ多キコト等ノ理由ニ依リテ決シテ山林收益ハ大ナルモノニ非ス之ニ對シテ十倍ノ増稅ヲ爲ス如キハ到底實行ヲ期スヘカラス若シ夫レ砂糖專賣其ノ他ノ新稅ノ創設ニ依リ又ハ關稅消費稅ノ増加ニ依リ鹽專賣收入

ニ匹敵スル財源ヲ得ルノ困難ナルハ原案審議ノ際ノ調査ニ依リテ略之ヲ知ルコトヲ得
ヘシ

又他ノ委員中或ハ專賣ハ之ヲ存續スルノ必要アリトスルモ多少專賣率ヲ輕減スヘシト論スル
者アリ或ハ專賣率ヲ輕減セスシテ小賣價格低廉ノ方法ヲ講スヘシト論スル者アリ是ニ於テ鹽
專賣廢止ノ可否ヲ多數ノ意見ニ求メタルニ結局存續說多數ヲ以テ成立シ廢止說ハ之ヲ否認ス
ルコトニ決シタリ

審査會ハ前款述フル所ノ如ク鹽專賣ヲ存續スルコトニ決シタリト雖現行制度ハ未タ完全ナル
モノトハ認メ難ク殊ニ小賣價格低減ノ方法ヲ講スルヲ以テ目下ノ急務ナリト認メタルヲ以テ
特別委員五名ニ附託シ將來ノ計畫ニ關シ調査セシムルコトト爲シタリ特別委員ハ前後二回ノ
會議ヲ重ネ慎重ニ論究ノ結果左ノ如ク之ヲ本會ニ報告シタリ

一 鹽ノ賣買價格ヲ調査スルニ卸賣價格ハ政府賣下價格ヨリ計算スレハ敢テ不當ノ價格ト
認ムルコトヲ得ス

二 小賣價格ハ卸賣買價格ニ割合ヒ計算スレハ相當輕減ノ餘裕アルモノト認ム

三 小賣價格ノ制限ハ現状ノ儘ニ於テ之ヲ實行セムトスルハ困難ナルヲ以テ左ノ方法ニ依
リ漸次全國一定ノ定價ヲ以テ消費者ニ鹽ノ賣渡ヲ爲スヲ適當ト認ム

現在ノ鹽問屋ヲ鹽元賣捌人ニ指定スルコト

元賣捌人ニ賣渡ス鹽ノ運搬費ハ政府之ヲ負擔スルコト

元賣捌人ハ一定ノ利益歩合(手數料)ヲ以テ小賣人ニ賣渡スコト

小賣人ハ元賣捌人ヨリ買受ケタル價格ニ一定ノ手數料ヲ加ヘタル定價ヲ以テ消費者

ニ賣渡スコト

(一)(ロ)(ハ)(ニ)

四 政府ノ負擔スル鹽ノ回送費ハ左ノ方法ニ依リ内地產鹽ヲ制限シ其ノ補填トシテ臺灣鹽及關東州鹽ヲ移入シ之ヨリ生スル專賣益金ノ増差ト鹽ノ回送費豫算額トヲ以テ之ニ充ツルコト

(備考) 五十萬斤未滿ノ產地ヲ整理セハ約二千六百萬斤ヲ減少ス之ヲ補充スルニ臺灣鹽等ヲ以テセハ專賣益金約九萬八千二百餘圓ヲ得ル見込

五 第三項ノ方法ニ依リ小賣價格ヲ一定スルモノトセハ一升當約五錢六厘ヲ以テ消費者ニ賣渡スコトヲ得ヘシ

六 第三項及第四項ノ方法ハ將來執ルヘキ方針トシテハ完備ナリト認ムト雖其ノ實行ニ關シテハ諸般ノ準備ヲ要スルヲ以テ急遽ニ之ヲ行フコトヲ得ス加之全國元賣捌人ニ對シテ悉ク官費ヲ以テ鹽ヲ回送セムトセハ約二百五十萬圓ヲ要スヘク其ノ他鹽田整理費又ハ販賣事務費等モ亦少ナカラサルヲ以テ此ノ際之ヲ實行スルコトヲ得ス故ニ差向キ左ノ方法ニ依リテ鹽價低廉ノ途ヲ講シ漸ヲ追フテ前記ノ目的ヲ遂行スルヲ可トス

甲 販賣方法ニ關シテ

(イ) 鹽產地以外ニ於ケル全國樞要ノ鹽消費地ニ官費ヲ以テ鹽ヲ回送シ政府ハ其ノ回送費ノ幾分例ヘハ一二割ヲ損シテ其ノ他ノ鹽商人又ハ消費者ニ賣下クルコト而シテ官費回送鹽ヲ販賣スル鹽問屋ノ販賣價格ハ政府ノ相當ト認ムル程度ニ制限スルコト

(ロ) 小賣人ノ小賣相場ハ前項ノ結果ニ依リ自然ニ下落セシムルコトヲ期シ尙政府ハ常ニ其ノ販賣價格ヲ查察シテ適當ノ程度ヲ保タシムルヲ期スルコト

(ハ) 鹽ノ一回賣下數量ハ大ニ之ヲ低下シ尙購買組合等ニ對シテハ賣渡上便利ヲ與フル

コト

乙 賠償價格低減ニ關シテ

(イ) 現在ノ製鹽方法ヲ改良シテ生産費ヲ減少セシムルコト
 (ロ) 機械製鹽等ニシテ特別安價ナル鹽ノ製造ヲ獎勵スルコト

丙 專賣率低減ニ關シテ

現行專賣率百斤一圓四十八錢ヨリ約百分ノ五ヲ減シテ百斤一圓四十錢ト爲スコト

七 專賣率一圓四十八錢ニ減スルコトニ因リテ國庫ハ約七十八萬圓ノ歳入ヲ減少スヘシト

雖モ之ニ對シテハ別段補填方法ヲ講セサルモノトス山林ニ増稅シテ其ノ補填ニ充ツヘシトノ論アリト雖山林ニ對シテ獨リ増稅セサルヘカラサルノ強キ理由ヲ發見シ難キモノト認メタリ

審查會ハ特別委員ノ報告ヲ問題トシ尙十分ナル審議ヲ盡シタリ而シテ將來ノ計畫ニ關シテハ大體ニ於テ特別委員ノ報告ヲ是認シタリト雖專賣率ヲ低減スルノ點ニ至リテハ議論復タ沸騰シタリ

先ツ專賣率低減ニ反對スル委員ハ曰ク

專賣率ヲ低減スルノ精神ニ至リテハ敢テ不可ナシト雖唯其ノ百分ノ五ヲ減スルニ至リテハ其ノ可ナル所以ヲ發見スル能ハス專賣稅率百分ノ五ヲ減スルニ因リテ算數上鹽價ハ一升ニ付一厘二毛五絲ノ低減ヲ見ルヘキノ理ナリト雖如斯輕微ナル賣下價格ノ低減ハ實際ニ於テ何等ノ效果ヲ奏セス徒ニ鹽商人ノ利益ニ歸スルニ至ルヘシ而カモ國庫ハ之ニ依リテ約七八萬圓ノ歳入不足ヲ生ス斯ノ如ク消費者ニ實益ナク而シテ國庫ニ損失アル結果ヲ生スヘキ特別委員ノ報告ニハ贊意ヲ表スル能ハス

特別委員ノ報告ヲ維持スル委員ハ曰ク

鹽專賣ノ惡制度タルヤ論ナキ所ナリト雖財政上ノ理由ニ依リ之ヲ全廢スル能ハサルモノト決定シタル以上ハ政府ノ收入スル專賣益金ハ出來得ル限り之ヲ減シテ鹽ノ小賣價格ヲ低減セシメ一般消費者ノ負擔ヲ輕減スルハ當然ノ措置ナリ抑モ稅法整理案審査會カ開設セラレヤ世人之ニ望ヲ囑スルコト大ニシテ從來惡稅ナリト稱セラレルモノハ之ヲ廢止シ重稅ナリト稱セラレルモノハ之ヲ輕減スルノ方針ニ出ツヘキモノト期待セルニ拘ラス事實ハ之ニ反シ彼ノ織物稅通行稅ハ依然トシテ之ヲ存續シ鹽專賣亦存續ニ決シタルハ世人ノ希望ニ反スル甚タ大ナリト謂ハサルヘカラス而テ鹽專賣ノ將來ノ計畫ニ關スル審査會ノ議ニシテ若シ徒ニ理想的姑息的ニ傾キ現實的應急的ノ手段ヲ講スルナカラシムル人心遂ニ離睽シ他ノ缺點ナキ租稅ニマテ満足セサルニ至ルノ虞アリ故ニ審査會ハ此ノ際其ノ意ノ存スル所ヲ明ニシ政府ニ收入スル專賣率ハ大ニ之ヲ低減スルト同時ニ製鹽者ニ支拂フ賠償金モ亦ナルヘク之ヲ低減シ而シテ鹽販賣者ニ對シテハ價格制限ノ法律ヲ勵行シテ不當ノ利益ヲ壟斷スルコトナカラシメ可能的ノ手段ヲ以テ鹽小賣價格ノ低減ヲ圖ルヘキナリ故ニ此ノ點ヨリ云ヘハ政府ハ約三百萬圓ノ專賣收入ヲ減少スル決心ヲ以テ適當ノ方法ヲ講スルヲ得策ト爲スト雖此ノ議不幸ニシテ特別委員ノ容ルル所トナラス僅カニ專賣率五分ヲ減スルコトニ決シタリ專賣率五分ノ低減ハ形式ニ過キ實益少キハ勿論ナリト雖審査會ノ意ノ存スル所ヲ示スニ足リ全ク減率セサルニ優ルヤ萬々ナリ

更ニ專賣率二割ヲ減スヘシト主張スル委員アリ其ノ所說ニ曰ク

專賣率ヲ低減スル趣旨ハ寔ニ可ナリト雖唯減率五分ニ止メタルハ遺憾ニ堪ヘス專賣率五分ノ低減ハ算數上鹽一升ニ付一厘二毛五絲ノ減價ニ過キスシテ殆ト實益ナキハ反對論者ノ言

ト同シ故ニ一步ヲ進メテ專賣率ノ二割ヲ減シ即チ一石二圓五十錢ヲ二圓ニ百斤一圓四十八錢ヲ一圓十八錢ニ減スルヲ至當トス斯ノ如クセンカ算數上鹽一升ニ付五厘ノ減價トナリ稍々專賣率低減ノ實益ヲ見ルニ至ルヘシ五分減率ノ如キハ兒戲タルノ感ナキニ非ス而シテ專賣率二割低減ニ因リ生スル專賣益金ハ約三百萬圓ヲ減少スルニ至ルヘシト雖之カ補填ハ他ニ之ヲ求ムルヲ要セス鹽ニ依リテ之ヲ補填スルコトヲ得ヘシ其ノ方法他ナシ臺灣鹽若ハ關東州鹽ヲ移入シテ其ノ價格ノ差金ニ依リテ之ヲ補填スルニ在リ勿論此ノ事タル内地鹽田ノ整理ト相待ツテ實行スヘキモノナルヲ以テ施行ノ初メニ於テハ多少國庫ノ損失ヲ免レサルヘシト雖數年ノ後ニハ缺損ナクシテ之ヲ實行シ得ヘシ由來鹽專賣實施ノ結果ハ所謂周急不繼富ノ古語ニ反シ鹽業者ニ對シテ過當ナル保護ヲ與ヘ一般消費者ニ高價ノ鹽ヲ供給スルニ至リタルモノナルヲ以テ今此ノ提案ノ如ク實行スルモノトスルモ鹽業者ニ對シテ敢テ苛酷ナリト云フヘカラス

此ノ提案ヲ批難スル委員ハ曰ク專賣率ヲ二割低減シ其ノ減率ニ因リテ生スル歲入不足ハ安價ナル臺灣鹽又ハ關東州鹽ノ移入ニ依リテ之ヲ補填スヘシトノ考案ハ寔ニ巧妙ナリト雖此ノ目的ヲ達セムトセハ内地鹽田ノ殆ト全部ヲ廢滅ニ歸セシムルノ覺悟ヲ要スヘシ何トナレハ現今内地鹽賠償價格ハ百斤ニ付平均九十四錢ナルニ反シ臺灣鹽買入價格ハ百斤ニ付平均六十八錢六厘ナルヲ以テ其ノ差金ハ百斤ニ付二十五錢四厘ナリ故ニ三百萬圓ノ缺損ヲ此ノ差金ヲ以テ補填セムトセハ殆ト十億斤以上ノ移入ヲ試ミサルヘカラスシテ斯ノ如キ多量ノ移入ハ到底不可能ナルノミナラス幸ニ之ヲ爲シ得タリトスルモ之カ爲内地鹽田ハ殆ト廢滅ニ歸スルノ外ナカルヘケレハナ

更ニ他ノ委員ハ曰ク

專賣率五分ノ低減ニ因リ國庫カ七十八萬圓ノ歲入缺損ヲ忍フノ覺悟アリトスレハ之ヲ轉シテ回送費ニ充ツルヲ得策トス專賣率五分ノ低減ニ因リテ鹽ノ價格ニ影響スルコトハ前論者ノ言ノ如ク到底想像スヘカラス假ニ算數ノ示ス如ク鹽ノ價格ニ影響スルモノトスルモ僅ニ一升ニ付一厘二毛五絲ニ過キス然ルニ今七十八萬圓ヲ投シテ官費回送ヲ試ミンカ約四億斤ヲ回送スルコトヲ得明治四十年年度豫算ニ於テ回送費ニ充テラレタル四十四萬圓ト合算スレハ約百二十萬圓ニ達シ六億斤以上鹽ヲ回送スルコトヲ得其ノ小賣價格ニ影響スルヤ一升一厘二毛五絲ノ比ニ非サルヘシ此ノ方法ハ特別委員ノ報告ニ係ル將來ノ計畫方針ニ一致セルノミナラス其ノ實益甚タ大ナルモノナルヲ以テ國庫ニシテ七十八萬圓ヲ減損スルノ覺悟アリトセハ專賣率引下ケヲ轉シテ回送費ニ充ツルニ如カス

審査會ニ於テハ諸說共ニ贊成アリシカ採決ニ至テ專賣率低減說ハ總テ少數ヲ以テ否決セラレ其ノ他特別委員ノ報告ハ皆之ヲ是認シ將來此ノ計畫方針ヲ以テ遂行スヘキモノト決シタリ

斯クシテ稅法整理案成案シタリシヲ以テ政府ハ其ノ整理案ヲ採用シ明治四十一年第二十四帝國議會ニ各稅法ノ改正案ヲ提出シ同時ニ戰後經營ノ必要ニ伴フ增稅又ハ新稅ノ法律案ヲ提出シタリシニ衆議院ニ於テ增稅案ハ修正可決シタルモ整理ニ係ル各種法律案ノ大部分ハ其ノ希望セル根本的改善ヲ遂クルニ至ラスシテ仍ホ研究調査ノ餘地アルモノトナシ之ヲ否決シタリ而シテ鹽專賣法ハ整理案ノ趣旨ニ基キ鹽價ヲ引下ケ消費者ノ便益ヲ圖ル目的ヲ以テ販賣官署ヲ增置シ元賣捌人及小賣人ヲ設定スルコトトシ改正法律案ヲ衆議院ニ提出シタリシニ其ノ特別委員會ニ於テ法案中附則第一項ニ但書ヲ加ヘ且期日ハ總テ三箇月ヲ延フルコトニ修正シ本會議ニ於テハ讀會省略ヲ以テ之ヲ可決シ貴族院ニ送付シタリ貴族院ニ於テモ特別委員ノ審議ニ付シ本會議ニ於

テハ何等異議ナク讀會ヲ省略シ衆議院修正ノ如ク可決確定シ明治四十一年四月之ヲ公布シタリ
法律第五十九號 (明治四十一年四月二十八日)

鹽專賣法中左ノ通改正ス

第十七條ノ二 鹽ハ政府又ハ政府ノ指定シタル鹽元賣捌人若ハ鹽小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣
スルコトヲ得ス

鹽賣捌人及鹽ノ販賣ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特ニ定メタル價格ヲ以テ鹽
ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

一 外國ニ輸出シ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

二 命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スル爲賣渡ヲ請求スル者アリタルトキ

三 前各號ノ外特ニ命令ヲ以テ定メタル場合ニ該當スルトキ

前條又ハ前項第三號ニ依リ賣渡シタル鹽ニシテ外國ニ輸出シ、本法ヲ施行セサル地ニ移出シ
又ハ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス

第二十條ヲ削ル

第二十條ノ二ヲ第二十條ニ改ム

第三十條ノ三 鹽賣捌人ニ非スシテ鹽ヲ販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以上五百
圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス

第十條中「賣買業ヲ賣捌業ニ、第二十條第二十一條第二十二條第三十條ノ二、第三十一條、第三十二
條、第三十六條、第三十七條及第三十九條中「鹽賣買業者ヲ「鹽賣捌人」ニ改ム

附 則

本法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十七條ノ二第二項ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鹽賣買業者ハ明治四十一年六月三十日ニ於テ現ニ其ノ所持ニ係ル鹽ノ種類、等級、數量ヲ明治四十一年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

鹽賣捌人ノ指定ヲ受ケサル者本法施行前ヨリ所持スル鹽ハ本法施行後一年ヲ限り之ヲ販賣スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ販賣者ハ其ノ販賣ニ關スル帳簿ヲ調製シ明治四十一年七月以後毎月末日ニ於ケル鹽ノ種類、等級、數量及其ノ月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ政府ニ申告スヘシ

前二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

當期衆議院ニ於テハ同院議員ヨリ非常特別稅法中織物消費稅及通行稅ノ廢止法律案ト共ニ鹽專賣法廢止法律案ヲ提出セルアリテ鹽專賣法ハ前年同院ヨリ廢止建議ヲ爲セルニ拘ラス政府ニ於テハ更ニ顧ミル所ナク廢止決行ニ至ラサルヲ難シ之カ廢止ヲ主張シ特別委員ニ付託シタルニ同委員會ニテハ贊否相半シ之ヲ否トスル者ニ在リテハ既ニ財政計畫ヲ是認シ豫算ノ協贊ヲ爲シタルニ拘ラス之ヲ廢止スルハ無責任ナリ稅法整理案ノ如キモ之ヲ否決シテ十分ナル整理ヲ促セル今日ニ於テハ其ノ整理ニ俟ツヲ可トスト云フニ在リテ委員長ノ意見ニ依リ終ニ否決トナリ本會議ニ於テハ委員會決定通之ヲ否決シタリ

別ニ又同期衆議院ニテハ内地製鹽カ鹽田製鹽ニシテ生産費ヲ要スルコト多ク廉價ニ輸入セル外國產岩鹽ニ對抗スル能ハサルヲ以テ今日鹽業ノ革新ヲ期スルニハ須ク内地ニ於テ岩鹽ノ有無ヲ調査シ以テ鹽ニ對スル根本政策ヲ樹ツヘシト主張シ岩鹽調査ニ關スル建議案ヲ提議シ之ヲ通過シタリ

岩鹽ヲ調査シテ我國鹽業ニ一大革新ヲ爲スヲ以テ現下ノ急務ト認ム故ニ政府ハ速ニ岩鹽調査

ノ方法ヲ講シ次期議會ニ提案スヘシ
右建議ス

明治四十一年三月二十七日

衆議院議長 杉田定一

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望殿

右建議ニ對シテハ農商務省ハ岩鹽層ノ存否ヲ確實ニ調査スルニハ試錐其ノ他ノ方法ニ依リ探鑛的調査ヲ爲スヲ要シ少ナカラサル經費ト日子トヲ要スルニ依リ先以テ果シテ岩鹽層ノ存在スヘキ望アルヤ否ニ關スル豫察的調査ヲ實行スルコトニ閣議ノ決定ヲ求メ内地ニ於ケル鹹泉湧出ノ中心トモ認ムヘキ長野縣鹿鹽、福島縣鹽澤地方ニ専門技師ヲ派シ實地調査ヲ爲サシメタリ然ルニ技師ハ海外諸國ニ於ケル多クノ實例ニ鑑ミ此等地方ニ在リテハ岩鹽產出ノ有望ナラサルヘキ斷案ヲ下シタルニ依リ政府ハ見込ナキモノト認定シタリ

此ノ時ニ當リ政府ハ專賣局ヲシテ稅法整理案ノ趣旨ニ則リ製鹽地整理ニ關スル内調ニ著手シツツアリシニ防長二國ノ鹽田地主總代ハ鹽專賣法實施後製鹽業漸クニ衰へ屢、賠償價格引上ヲ要求スルモ容レラレス鹽田ハ竟ニ荒廢ニ至ラムトスト稱シ鹽制ニ對シ同案ヲ舉ケテ政府ニ建議シタリ

曰鹽專賣法ヲ全廢スルコト曰鹽田整理法ヲ斷行スルコト曰鹽ノ製造ヲ個人ニ許可セサルコト曰管理上不便ノ鹽田及生産費最高ノ鹽田ヲ廢シ其ノ他ヲ保存スルコト而シテ其ノ趣旨トスル所ハ現在ノ鹽賠償價格ニテハ製鹽上收支償フ能ハサルヲ以テ假令外國鹽ニ壓倒セラレルトモ自由營業ト爲スノ優レルニ如カストシ專賣ノ廢止ヲ主張シ若シ廢止スル能ハストセハ鹽田整理ヲ遂行シ相當賠償金ヲ以テ鹽田ヲ政府ニ買收シ内地鹽田ヲ全廢スルコト之ヲシモ能ハスムハ鹽ノ製造ハ之ヲ個人ニ許可セス區域ヲ定メテ合資經營セシメ大經營ニ限リ製鹽ヲ許可スルコトトシ生

産利益ヲ舉クヘシ若シ以上三案ニシテ採納シ難シトセハ内地鹽田ノ半ハ第二案ニ依リ之ヲ整理シ其ノ餘ノ半ハ第三案ニ依リ大經營ニ限り許可スルコトトシ整理ノ爲メ不足スヘキ鹽ハ低價ナル臺灣鹽等ヲ輸入シ之ニ由リ生スヘキ差益ヲ以テ鹽價ノ引下ニ充當スヘシトナシ同案ノ中其一ヲ斷行セムコトヲ要望シタリ

明治四十二年帝國議會ニ在リテモ衆議院ニ於テ織物消費稅及通行稅ノ廢止法律案ト共ニ復鹽專賣法廢止法律案ヲ提出シ是非ノ論議頗ル多カリシト雖主トシテ財政上廢止スル能ハサル理由ヲ以テ否決トナレリ

曩ニ一旦成案シタリシ稅法整理案ハ第二十四帝國議會ニ於テ衆議院ニテ否決セララルニ至リ實行スルニ至ラザリシモ稅法整理ハ緊切ノ問題ニシテ一日モ緩フスヘカラサルモノナルヲ以テ大藏省ニ於テハ爾來調査ヲ續行シ之カ遂行ヲ期シ曾テ之ヲ中止セス然ルニ輿論ノ期待スル所ハ全ク減稅的整理ニ在リテ當初採リタル租稅總額ヲ動カササル範圍内ニ於テ國民負擔ノ權衡ヲ計ルノ方針ハ之ヲ變更セサルヘカラサルニ至リシニ依リ多少ニテモ國民ノ負擔ヲ輕減セムコトヲ目的トシ財政上許ス限リ最急ノモノヨリ序ヲ逐フテ整理ヲ遂クルコトトシ更ニ改正法律案ヲ成案シタリ鹽專賣ハ通行稅織物消費稅ト共ニ三大惡稅ト稱セラレ之カ廢止ヲ唱フル者少カラザリシヲ以テ特ニ其ノ利害得失ニ付再次審究シタリシモ其ノ性質世ニ謂フカ如キ惡稅ニ非サルノミナラス假ニ鹽專賣ヲ廢止ストセハ約一千餘萬圓ノ歲入ヲ失ヒ他ノ急務トスル租稅整理ノ財源ハ全ク之ヲ失フニ至ルヘク今日ノ財政狀態ニ於テハ到底忍フ能ハサル所ニシテ且又國民負擔ノ緩急ヲ真ル所以ニ非サルヲ以テ同制度ノ改善ヲ期シ鹽田ヲ整理シテ鹽價ノ低減ヲ遂行シ且其ノ他施行上ノ改善ニ依リテ其ノ缺點ヲ除去シ之ヲ維持スルコトニ決定シ別ニ製鹽地整理法律案ヲ立案シ明治四十三年第二十六帝國議會ニ提出シ衆議院及貴族院ヲ通過シタリ其ノ顛末ハ第二章第二

節ニ詳記セルカ如シ然ルニ同期衆議院ニテハ復又鹽專賣法廢止法律案ノ提出ヲ見タリシモ委員付託ニ至ラス第一讀會ニテ直ニ否決シタリ

尋テ明治四十四年第二十七帝國議會ニ於テモ衆議院ニ於テハ同一ニ三稅廢止ノ提案アリシモ委員付託ニ至ラス直ニ否決トナレリ

明治四十五年第二十八帝國議會ニ際シテハ政府ニ於テ制度調查局ヲ設ケ行政及財政ノ整理ヲ期セルコトヲ宣明セルヲ以テ衆議院ニ於テハ之ヲ期待シ豫算ヲ議スルニ臨ミ臺灣鹽業ニ關シ内地

移入ニ際シ個人ニ利益ヲ壟斷セシムルカ如キコト無カラムコトヲ希望シタルアリシノミニテ年々提案ヲ見タリシ鹽專賣法廢止法律案ハ提出ヲ見ルニ至ラザリシ

越テ大正二年第三十帝國議會ニ至リテハ衆議院ニ於テ再ヒ鹽專賣法廢止法律案ヲ提出スルニ至リシモ會期內ニ議決ニ至ラスシテ止ミタリ

第一節 鹽專賣法不施行地ノ改正

鹽專賣法第四十二條ニ依リ鹽專賣法ヲ施行セサル地方ヲ指定シタルコト左ノ如シ

勅令第三百三十四號 (明治三十八年四月十三日)

(省略 第二章第三節參看)

千島列島ニ於ケル鹽ノ需要ハ樺太ト同シク殆ト漁業用鹽ニシテ樺太ハ專賣法不施行地ナル爲メ移出鹽トシテ取扱ヲ受ケ得ヘキニ反シ千島ハ專賣法施行地ナルヲ以テ漁業用鹽トシテ檢査其ノ他手續上ノ不便ヲ忍ハサルヘカラサルアリ漁業者ノ苦痛トスル處ニシテ而カモ同島ハ鹽ノ生産ナク取締上ニ於テモ別ニ支障アルニ非サルヲ以テ漁業獎勵ノ趣旨ニ依リ移出鹽ノ取扱ヲ受ケシムヘキ目的ヲ以テ專賣法不施行地ニ加ヘタリ